

3

It is Christmas Eve tonight.

Tyltyl and Mytyl are dancing to the music playing from a radio.

Tyltyl and his younger sister Mytyl are very close siblings.

Their family is very poor so they do not have any Christmas decorations or a special dinner.

But Tyltyl and Mytyl are still happy; dancing and singing along to the music.

Suddenly, they heard a knock on the door.

They opened the door, and an old lady with a walking stick was standing there.



"Good evening. Do you kids know where a blue bird is?"

"A blue bird? The bird we own is a usual Dove. It's not blue."

"Oh okay. I heard a happy singing voice so I thought that a blue bird might be here, because a blue bird is a bird that brings peace and happiness to people."

The old lady looked very disappointed.

Mytyl asked, "Why are you looking for a blue bird?"

"To tell you two the truth...I am a witch. I want to show a blue bird to some sick children. Oh, I have an idea! Could you two please go look for one?"

Tyltyl and Mytyl were very surprised.



きょうは クリスマスイブ。

『チルチル』と『ミチル』は、ラジオから ながれる
おんがくに あわせて、ダンスを していました。
あにの チルチルと、いもうとの ミチルは、
とても なかのいい きょうだいでした。

ふたりのいえは まずしく、ここには
クリスマスの プレゼントも かざりも、なにもありません。

それでも、こうして たのしく ダンスをしたり、
うたを うたっているだけで、
ふたりは とてもしあわせでした。

ふと だれかが、いえの ドアを たたきました。

ドアを あけると、そこには、
つえを ついた おばあさんが たっていました。



「こんばんは。あなたたち『あおとり』を しらないかい？」

「あおとり？ぼくの かつている とりは、

ただの キジバトだよ。あおとりじゃ ないよ」

「そうかい。とても しあわせそうな うたごえが

きこえてきたから、ここに あおとりが いるんじゃないかと

おもってね。あおとりは、しあわせを はこぶ とりだから」

おばあさんは、とても がっかりしたようすで いいました。

「おばあさんは、どうして あおとりを さがしているの？」

「じつは わたしは、まほうつかいなんだよ。

びょうきの こどもたちに、あおとりを

みせてあげたくてね。・・ああ、そうだ！

あなたたち、あおとりを さがしてきて くれなにかい？」

チルチルと ミチルは、とても おどろきました。

